

平成三十年度 福岡県 更生保護功労表彰受章者

法務大臣表彰 ● 池浦 純二 (福津市)

九州地方更生保護委員会委員長表彰 ● 片山 忠和 (宗像市) ● 廣渡 孝代 (福津市)

九州地方保護司連盟会長表彰 ● 永山 麗子 (福津市) ● 横山 良雄 (福津市)

福岡保護観察所長表彰 ● 城戸 克哉 (福津市)

福岡県保護司会連合会長表彰 ● 大友 布美世 (宗像市) ● 福地 幸子 (宗像市) ● 井ノ上 義憲 (福津市) ● 占部 泉 (福津市) ● 下山 昭博 (福津市) ● 増田 裕俊 (福津市) ● 鷲野 正和 (福津市)

福岡県保護司会連合会長感謝状(内助功労) ● 花田 キミエ (宗像市) ● 萩原 ヒロ子 (福津市)

保護司の異動 【退任】 長い間「苦勞様でした」阿部 尚志(福津市) 十月九日付 前田 康(宗像市) 十月九日付 【新任】 平成三十年三月三十一日付 内田 龍男(宗像市) 石松 俊也(宗像市)

宗像区更生保護女性会の活動について



宗像区更生保護女性会 会長 清武 紀美子

分かれ、年に一度のブロック研修を行っており、今年度、私共福岡ブロックで受け入れ、宗像区で開催いたしました。福津市人権政策課にご協力いただき、昨年九月五日、福津市中央公民館にて会員二百名が集まりました。宗像大社権宮司津幹之氏より「宗像大社の歴史と由緒」のテーマで講演いただき、大変興味深いものとなりました。また、来賓として福津市原崎市長、篠栗保護区中元支部長、宗像保護区植木会長にご臨席いただきました。午後は、三分科会に分かれ、更生保護女性会の活動報告と意見交換などが活発に行われました。終わりに、福岡保護観察所伊達所長より、今後の取り組み方、あり方、全国の現状など話していただきました。多くの方々のご理解とご協力をいただき、このような大会を持てることができましたことに感謝申し上げます。今後の活動にも活かして参ります。

保護司退任にあたって



福津市 阿部 尚志

平成三十年九月二十五日、宗像市の前田康さんと一緒に、福岡保護観察所の所長さんから法務大臣感謝状と記念品をいただきました。平成十六年に保護司の委嘱を受けて十五年があつたという間に過ぎた気がします。この間、多くの方からご指導とご協力をいただき心から感謝いたします。振り返りますと、私、十名の対象者を受け持ちました。最初、対象者に会う前は少し不安でした。観察所から来た経過や遵守事項を見て、どんな人だろうと心配でしたが、本人に会ってみるとどの人も素直で、どうしてこの人が法を犯すことになったのだろうと思うことがほとんどでした。面会を重ねるうちに愛着も湧き、いろいろな相談に乗るようになりました。更生にとつて大事なことは、住所があること、仕事に就けること、そして引受人の協力です。仕事が見つけれられて引受人とうまくいけばほっとしました。保護司をして良かったと思うことは、多くの方々と出会っているいろいろな見方考え方を学んだことです。特に、保護司の信条、社会奉仕の精神をもつて、一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の予防に努めます。一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

編集後記

保護司は個人的な活動(面接等の処遇)を行つてはいるほかに、組織的な活動「社会を明るくする運動(非行・犯罪の予防・防止)」を保護司会で取り組んでいます。地域のご理解があると心強く感じます。ご愛読、ありがとうございます。 白磯 祐馬



中津少年学院にて



発行責任者 植木 健二 宗像保護区保護司会 事務局 宗像市東郷2丁目1番43号201号室 TEL 0940-72-1931 FAX 0940-72-1932

宗像保護区更生保護サポートセンター設立



宗像保護区は、会員四十五名の保護司が、地域社会の中で自立を目指す対象者の支援援助等の活動をしています。一昨年から宗像保護区内に、「宗像保護区更生保護サポートセンター」を設置する構想があり、具体的に進めて参りました。本年一月に宗像市役所前に開設され、地域社会・関係機関と連携した更生保護活動の拠点として、おおいに活用されることを願っています。



地域と共に

社会を明るくする運動

宗像支部長 赤田 義明

保護司会の主たる活動は、非行・犯罪の予防・防止の啓発(社会を明るくする運動)です。宗像支部では活動の一環として、宗像市、宗像署、各コミセンの方にご協力いただき、街頭啓発を行いました。また、玄海中学校での活動では、登校している生徒たちと挨拶を交わしながら、リーフレットを配布しました。今年度は近隣交番のご協力もあり、さらに内容のあるものとなりました。これからも地域と共に「社会を明るくする運動」を推進していきます。



中津少年学院の矯正教育を目的にして

福津支部長 下山 昭博

大分県中津にある「中津少年学院」に、更生保護女性会、福津市人権政策課の方と共に二十六名で視察研修に行きました。ここでは非行や罪を犯しているが、特別な支援教育を要する少年が現在三十八名収容されています。教育内容の内訳は、農園芸科、陶芸科、木工科ですが、それぞれの科への振り分けは、指導教官の経験の目で判断されていました。農園芸科は、ある程度コミュニケーションが取れる少年、陶芸科と木工科にはコミュニケーションに障害があり一人で作業をする少年が割り振られていました。社会復帰を目指し一年間の矯正教育と並行して、保護者の教育も行われていました。少年たちの仮出院後、私たちも再犯防止に向けて、改めて勉強させられる研修となりました。

安心・安全なまちづくりのために

宗像市 井浦 潤也



昨年九月に保護司に就任させていただきました。一年が過ぎました。最初にお声かけいただいた時は活動を深く存じ上げず、引き受けた後に大変な職務だと実感するようになり、同時に先輩保護司の皆様のご活躍に感銘いたしました。

私は、小学校・中学校のPTA会長や東郷地区コミュニティ運営協議会の役員を務めてきた中で、安心・安全なまちづくりのために、地域の方々との政をもっと繋ぐことが不可欠と感じておりました。二年前にその想いを持って市議会議員となりましたが、保護司の活動も同じ趣旨であると思つて活動しています。まだまだ若輩者ですが、安心・安全なまちづくりのために、精進していきます。



宗像保護区最優秀賞 (中学生の部)

福津市立福岡中学校 三年 窪田 隼人

今世の中にはたくさん犯罪や非行が起きている。その日の夜にテレビを点けて見ると、どこにどの様な事件が...というニュースを聞く。けれども、幸いなことに僕の身近な地域では、大きな犯罪というようなことは起きていない。昔に比べれば、今は犯罪発生件数も少なくなっている。それでも、なぜ犯罪や非行はなくなるしないのだろうか。

私なりに考えてみたのだが、自分の身の回りに友達や悩み事を相談できる人がいなくて非行に走っているのではないかと思う。ただ、自分で解決できるような単なる悩み事では犯罪を起ささないだろう。自分だけでは抱えきれなくなった悩みがあるのだろうかと思う。それを、打ち明ける人も相談する人も周りにいないのかもしれない。では、人間は悩みを持ってはいけないのだろうか。僕は、悩みを持つことは悪いことではないと思う。むしろ、悩みを持っている人の方が人として成長できて伸びていく。だから、悩みがあるのは当たり前前のことで、上手に付き合っていくことが大事だと思う。そこで、大切な人が人とのつながり次第と思う。人と人との出会



いは、改めて不思議なつながりがあるなど感じる。話しているうちに、お互いに共通している部分が見つかることもある。そのうち、お互いに笑顔が浮かべながら話していることもある。こうしてお互いに心と心が通じ合っていくのだ。毎日明るく元気な人もいれば、とにかく走り回って忙しそうなのもいる。私たちは、一人ひとり性格も違っていて、考え方もそれぞれ違っていて、抱えている悩みも変わる。だから、人との付き合いは、大変なことも多くイライラすることもあってもいい。しかし、人との出会いは心を軽くすることだってできる。人と話すことで救われるところもあるだろう。どうしたら、良い人との関わりを持つことができるだろう。それは、一人ひとりが日頃から立場を変えて違った見方や考え方をしてみることだと思う。例えば、これを友達に言えば怒るだろう。それは、一人ひとりが日頃から立場を変えて違った見方や考え方をしてみることだと思う。例えば、これを友達に言えば怒るだろう。

うなとか、こうしたら相手が好きだろうなといった相手の立場になって考えてみるのが大切である。すると、周りが違って見えてくるのではないだろうか。あの人の言葉は心配の気持ちからだと、自分のことを思っているからだと気付くものがあると思う。一回でも万引きをしてしまうと、犯罪である。小さい罪でも、罪は罪である。犯罪に大小の差はないと思う。この先の社会を支えるのは、僕たち若者の責務である。未来を背負った少年、

宗像保護区最優秀賞 (小学生の部)

福津市立神興小学校 六年 佐藤 姫愛



少女が非行に走ってしまったと、この先誰が担っていくのか。でも、この先で嫌になって現実逃避をしたくない気持ちを伝えることは、未来を生きていく力となる。お互いに支え合って生きていくということは、この世の犯罪や非行を減らす効果があると思う。社会を明るくするために、一人ひとりが声を掛け合い、物事をいろんな視点から考えられるようにしていくべきだ。これからの未来のために、僕たちが頑張っていきたい。

作文コンテスト 応募状況 H30年9月

Table with columns for school name and number of applicants. Includes schools like Gijuku, Akahama, and others, with a total of 3,218 applicants.

(作文コンテスト)は「社会を明るくする運動」の一環として、日常の家庭生活や学校生活の中で犯罪や非行などについて考えたこと、感じたことを書き、理解を深めてもらうことを目的として行なわれています。今年も3,218名の多数の応募をいただきました。ご協力、ご指導くださいました先生方や関係者に心より感謝申し上げます。

に、悪者だからといつまでもその人だけをさけるようなことは「いじめ」「差別」に当たる。そんなことにならないためには、犯罪を起さしてしまつた人をいつまでも責めるのではなく、その人が立ち直るまで優しく見守り、社会に改めて出てきた時、優しく受け入れてあげることが、私たちに必要な手段だと思う。犯罪、非行のない地域社会を創っていくには、私たちのこのような判断が必要になってくると思う。犯罪、非行の道へ走つた人を社会に出て立ち直つても、いつまでも悪い人だと見下すようなことは「差別」。みんなが平等に、正しいことを分かり合つて、社会をつくっていききたい。

宗像保護区優秀賞作品

- List of award-winning students and their schools: 福岡南小六年 安西夏海, 自由ヶ丘小六年 丸山桃佳, 中央中三年 吉田花奈子, 河東中二年 久良木愛.

地域の一員としてよりよく生きる 生徒の育成を目指して

宗像市立玄海中学校 校長 澁川 義満

玄海中学校の生徒数は、一年生四〇名、二年生四五名、三年生四〇名の合計一二五名です。平成三〇年四月に宗像市教育委員会より二年間の研究指定・委嘱を受けて第二期小中一貫教育に取り組んでいます。玄海学園「玄海小・玄海東小・地島小・玄海中」の教育目標「地域の一員としてよりよく生きる生徒の育成」を目指しています。特に来年度の研究発表会に向けて、ふるさと学習「世界遺産学習」に力を入れ取り組んでいます。一年生は、「ふるさと宗像の魅力を知ろう」というテーマで、マンホールカードの制作に取り組んでいます。二年生は、修学旅行で宗像の魅力を知ろうというテーマで、二、三月の修学旅行で京都の班別自主研修の中で、出会った人たちにリーフレットやマンホールカードを基に宗像の魅力を知ってもらうように取り組んでいます。三年生は、「提言しよう！宗像をより魅力的な街にするために」というテーマで、八か所の事業所に訪問し、インタビュー活動を行い、取材してまとめた成果と課題を基に各事業所の課題を解決する提案をするように取り組んで

